

リニア中央新幹線建設について更なる解明と議論が必要！

10月10日、『申10号』『申14号』に基づき、リニア中央新幹線建設に関する業務委員会を開催しました。しかし会社は説明員を同席させたのにも関わらず、また時間不足で十分な解明や議論ができませんでした。さらに時間不足については、組合側に責任があるかのような態度でした。

JR東海労の要求に対し、会社回答は曖昧で不十分であり、「非開示」を理由にまったく回答しない部分もありました。このままでは「建設ありき」でリニア中央新幹線建設が進められてしまいます。従ってJR東海労はあらためてリニア中央新幹線建設について解明を申し入れました。

『申第18号』の申し入れ内容

- 建設費の算出根拠を具体的に明らかにすること
- 需要試算で少子高齢化による人口減少をなぜ考慮しないのか明らかにすること。
- 需要試算で他交通機関からの転移、新規需要の算出根拠を明らかにすること。
- 「非開示」として回答しなかった項目について、「非開示」とする理由を明らかにすること。
- 大地震でも破壊されないとする「リニアトンネル」の「特別な工法」を明らかにすること。
- 事故発生時の避難方法は不十分である。あらゆるケースを想定した避難方法を明らかにすること。
- 各駅停車タイプ列車の運転所要時分、待避時間を明らかにすること。
- 環境影響調査の調査機関を明らかにすること。
- 環境影響調査は数年間必要との指摘がある。この指摘に沿った調査を行うのか明らかにすること。

『申第18号』であらためてリニア中央新幹線建設について解明を申し入れ！